

景況実感調査(2016年12月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 実働18日となり、前月並みの売上となった。安値玉は散見されず、売り腰もしっかりとしてきたようだ。メーカーも諸口、店売りの申し込みカット等、新年からもこの流れが継続されよう。スクラップも高値となり、高炉、電炉ともコストプッシュ要因が共有されており、秋口まで申し込み、在庫を圧縮してきた流通各社も財源確保に注力せざるを得ず、潮目は完全に変わったと思われる。期末までの3ヶ月をしっかりと商売していきたい。
- ② 前月、仮需と見受けられた状況も12月にやや落ち着いたようではあるが、これはメーカーロールの絞り込みもあり、販売玉が無くなり、在庫に歯抜けが出てきたという要因もあるのではないと思われる。メーカー値上げによる先高観も定着し、年明けの逼迫が懸念される状況で、つれて市況も上昇傾向となっており、市況上昇期に見られる定尺よりコイル値が高い値動きも出ている。一般ユーザーもメーカー値上げについて理解を示しており、今後は大手自動車メーカーの早期の価格改定表明を経て、コイルセンターからユーザー価格への転嫁がスムーズに進行することを願うところである。
- ③ メーカーの値上げにより、値上げを強行しなければ赤字に転落してしまう。ロールカットにより入荷の量が減少しているため、在庫を大切に売らなければならなくなってきた。安値や仮需に対応すると自らの首を絞めることになる。
- ④ 酸洗材の在庫、入荷状況が悪い。市中材のタイトな状況が続く。
- ⑤ 大きな仮需が出ており、品薄感と相場上昇が顕著に現れているが、実需面ではまだ乏しく、好況感を実感できない。
- ⑥ 日に日にタイト感が増している。

中板・厚板

- ① 厚板メーカーが値上げ発表。値上げの板の在庫のタイミングで切板にも転嫁したい。

—舟安开形鋼

- ① 前月比、営業日数減少なるも売上、粗利がほぼ横這いなのは奇貨というべきか。鋼材値上げの影響よりも年度末を控えた公共事業投資の出具合によるものと思われる。H形鋼も市中在庫の減少が目立つが形鋼はさらに少ない。

II开形鋼

- ① 12月の倉出しは減少し、日当たりも減少した。各メーカーの値上げ玉が入荷し、流通としてもスピードを上げて価格転嫁していく。
- ② 需給バランスは取れているが、需要はもう一つと思われる。メーカーネットの急激な上げスピードに市況が追い付いていけない状況であり、スピードを速める必要がある。

異形棒鋼

- ① メーカー価格上昇の影響を受け、市況押し上げが進んできた。しっかり価格転嫁を実行、収益を確保していきたい。
- ② 12月、メーカー強気で55円/kg前後のメーカー出し値となった。店売りも11月2円/kg、12月4円/kgと上がり60円/kgとなった。荷動きはそれほど変化が無い。

平鋼

- ① メーカー値上げを受けて仮需が発生している。実需も動き始めた感あり。原材料の高騰により12月、1月と連続値上げとなった。急激な価格上昇は採算面を圧迫するため、価格転嫁を急いでいる。

車量形鋼

- ① 前月と同様で横這い。大きな変化も無く、年を越した。
- ② 12月はやや前年割れの生産量となった。年が明けて稼働4日目だが、やや好転の状況。次月以降に期待する。
- ③ 建築物件が順調に推移していることが要因かは定かではないが、加工だけが混み合っている状況が続いている。

鋼管

- ① 来年の具体的な物件が見え始めており、徐々に出荷が上向いている。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品は堅調な動きとなっており、3月までは同様な動きが続くと思われる。建設機械関連は、中国、東南アジア向け輸出の増加により生産が回復しており、3月～4月頃までは続くと思われるが、それ以降は不透明である。店売りの荷動きは依然として振るわない状況が続いているが、今後、建設機械の増加により多少回復していくものと思われる。各鉄鋼メーカーの店売り値上げ実施に伴い、今後、価格転嫁をせざるを得ない状況となっている。
- ② 店売りの状況は変わらず悪い中で高炉、電炉ともに値上げを実施している。価格の転嫁が急がれる状況。

鋼材全般

- ① 12月は20日までは11月並みに数量、売上とも維持出来た。ただし、メーカー値上げに対応出来ていない部分もあり、思っていた以上に収益は伸びていない。1～3月までは例年通りの展開となると思われる。
- ② 需要が少ない上に、今後仕入れ値がアップする傾向で厳しい様子。

その他

<スクラップ>

- ① スクラップ価格は急騰したが、集荷競争が激しく、適正な利幅を確保するのが難しい。現状は厳しい。

<金属表面処理加工>

- ① 12月は紐付き、物件物とも計画通り。12月中旬以降、スポットの緊急手配等、短納期対応が多くあり、前月比処理量10%増となる。先納期分を含め、年明けよりプラント物のまとまった物量の加工を開始することから引き続き高操業で推移しそうである。